二十周年記念論文集の発刊に際して

今年度は社会学部が発足してから20周年に当りますので，これを記念して論文集を刊行する運びに成りましたことを心からお慶び申上ます。

社会学部の源は遠く大正4年に設けられた文学部社会学科にまで遡りますが，65年も前に一私学で社会学科を設けていたところは極めて稀なことであります。関西学院はキリスト教主義の大学であるから，建学の精神を生かして社会奉仕を実践する人物を養成すべきだという「小山東助先生」の社会学科設立の理念は，昭和27年文学部に社会事業学科も設けられソーシャル・ワーカーの養成が始まることによってより具体化されました。

社会学部はこれらの文学部社会学科と社会事業学科を母体として昭和35年4月に発足いたしました。当時は学生の定員も200名にすぎませんでしたが，昭和51年から400名に増員され，これに対応して専任教員も21名から40名に強化されました。この20年間にようやく学部としての形も整い，内容も次第に充実して来たように思われます。

昭和45年の10周年にも記念論文集を刊行いたしましたが，未曽有の大学紛争の余燼もまだ十分に治まっていない状況で，研究教育体制の再建に大わらわの時期でした。それに比べると，今日ではキャンパスもすっかり平静になり研究教育に専念出来るような状況になりましたことはまことに有難いことです。

大学の使命はまず何よりもアカデミズムの昂揚にあると考えられますので，著名な学者をお招きして講演や講義をしていただき，教員や学生の研究意欲を高めることもきわめて重要なことと思われます。

幸い昭和53年の秋にはハーバード大学名誉教授のタルコット・パーソンズ先生を迎えて講演と集中講義をしていただきましたので，これを記念して関西学院大学ではパーソンズ教授に名誉学位を贈りましたが，本論文集には大学主催の講演会でお話しになった「現代における大学の諸問題」を掲載させていただきました。パーソンズ先生は関西学院から帰国されて5ケ月後，ドイツのミュンヘンで急逝されましたので，先生の講演や講義はわれわれにとって貴重な遺産となったわけです。

昭和54年の春には20周年を記念して，社会学部とゆかりの深い新明正道先生を迎えて「日本社会学の展開」という題で講演していただき，さらに秋には東京大学から富永健一先生を迎えて「日本の社会階層」と題する講演をしていただきましたのでこれらも掲載いたしました。このようなわけで三つの記念講演が巻頭をかざることになりましたことは誠に喜ばしいかぎりです。

このように私達の学部も次第にアカデミックな実績を積上げつつあると思います。ことに今日では研究活動も国内だけでなく国際的な協同研究が活発になって来ました。このような時に当り，社会学部ではアメリカのスタンフォード大学から宗教社会学担当の教授を迎えることが出来ました。ミッション・ボードと関係なく外人教授を迎えることは関西学院でも初めてのことです。

20年の間に学部も，一歩一歩，着実に前進はしたものの，なお顧みてわれわれの力の足りなさを痛感いたします。この機会に，学部をあげて，学問の発展のために一層の努力をいたすことを誓いたいと思います。

昭和55年3月

社会学部長

倉田和四生